

個別事例を通じた介護支援専門員に対する指導・支援の展開事例シート(地域包括ケアシステム)

担当介護支援専門員名:(イニシャル) J		所属:居宅(1人CM)		実務経験: 2年		基礎資格:介護福祉士	
スーパービジョンに出たい理由		介護保険を利用してほしいが、本人の拒否があり、サービスに繋がらない。					
事例のタイトル		サービス拒否があり、独居で身寄りのない人の支援					
検討したい課題		自宅内がゴミ屋敷で、サービスの拒否がある人をどのように支援していけばよいか。					
事例対象者の情報		氏名(イニシャル) Aさん				女	年齢 68歳
世帯状況(独居・〇) 〇) 人家族				健康状態			
生活歴・家族状況(ジェノグラム)				既往歴		46歳頃 うつ症状と不眠で、Aクリニックを受診してうつ病の診断。現在、B精神科クリニックに受診。63歳頃 両眼白内障手術、高血圧症でC病院に受診。現在受診中。65歳 C病院でアルツハイマー型認知症の診断。	
県内出身。高校卒業後に、短期間事務職をして結婚して家庭に入るが、5年後に離婚。その後は親元で暮らし、パートで働いていた。38歳で再婚、43歳で長男を出産。その頃両親が相次いで他界し、長男も3歳で事故死してしまう。長男死去後、気力を失い引きこもりがちになる。64歳で夫が亡くなった以降、一人暮らしを続ける。現在趣味はないが、以前は、音楽を聴きながらドリップ・コーヒーを楽しんでいた。戸建て2階屋。2階は物置になり、本人は1階の万年床で就寝。室内は荷物が多く、亡くなった長男の玩具も多数あり、片づけられない理由の1つになっている。		現病歴		63歳のころから高血圧症でC病院に受診した際に、アルツハイマー型認知症と診断されたので、ここで主治医意見書を書いてもらう。うつ病で、Bクリニックを受診、眠剤服用で不眠症はおさまっている。			
		要介護度		要介護2 障害高齢者の日常生活自立度 J2			
		自己負担割合		1割 認知症高齢者の日常生活自立度 II b			
		被保険者情報		医療保険 年金等 国民年金 月5万円位 身体等障害手帳 不明 その他			
ADL		概ね自立しており、生活に支障はない。		IADL		認知症により、服薬管理・金銭管理に支障がある。家中、ゴミの山だが、本人には片づける意欲がない。	
利用中のサービス		なし。今後は、認知症対応型通所介護(週3回)と訪問介護(週2回)を予定。		経済状況		国民年金 月5万円位。	
利用者・家族の意向及び目標		ご本人:Sさんがあれこれ助けてくれるので、役所の世話は不要です。 Sさん:物忘れが進んで、1日中目が離せない、昔からの知り合いなので、色々手伝ってきたが、私も年なので手を退きたい。介護保険で何とかしてください。					
支援を開始した経緯等 Sさんから居宅介護支援事業所へ支援の依頼があった。							
相談内容 家の中はゴミの山だが、本人には片づける意欲がない。これまで知人のSさん(総菜屋店主)の支援で生活していたが、高齢でもう支援は出来ない。しかし、本人はSさんがいつでも支援してくれる気であるので困っている。介護保険で何とかならないか。							
事例の概要(支援経過の要約)							
R1.11.3 Sさんから居宅介護支援事業所へ支援の依頼があった。							
R1.11.5 Sさんと担当ケアマネが同行訪問して、本人と面談。ケアマネはアセスメントを基に、認知症デイサービスとヘルパーが必要と判断した。							
R1.11.9 併設の訪問介護事業所と同行訪問。サービス提供責任者から、ゴミの山がひどいのでこのままでは支援に入れないと言われた。大掃除が必要と提案しても、本人は強く拒否。							
R1.11.12 本人の拒否が続いている為、担当ケアマネが包括に相談した。							